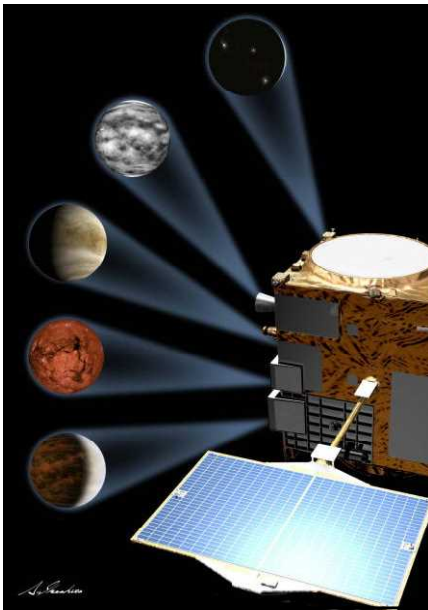


<ニュースから・「あかつき」の担当者の思い>

「ついにわれわれの夢が実現した」 「心の底から沸き上がる、金星に到着したという 気持ちだ」

金星探査機「あかつき」の軌道投入成功について9日、宇宙航空研究開発機構（JAXA）の相模原キャンパスで会見した計画責任者の中村正人プロジェクトマネージャはこう話し、安堵（あんど）の表情を浮かべた。

主エンジンの故障という重大事態から5年がかりで果たした“返り咲き”。中村氏は、「4つの姿勢制御用のエンジンが均整に噴く必要があったが、非常によく合わせられた。探査機を丁寧に作ったことが、非常事態に役立った」と振り返った。



また、「たくさんのメッセージで温かく見守ってくださった方がいなければ、実現できなかった」と、応援した多くの宇宙ファンに感謝の言葉述べた。

再挑戦への軌道探しに尽力した広瀬史子主任研究員は「一番犠牲にしてきたのは家族。夜遅く帰宅しても娘は大はしゃぎしてくれた。周回軌道投入の前日、夫が『投入でしょ』と言って豆乳鍋を作ってくれた」と笑顔でエピソードを明かし、感無量の様子を見せた。

中村氏は「失敗すると想像力をどこに働かせるかの勘所が分かってくる。米国や旧ソ連は失敗を繰り返して成功した」と話し、5年前の失敗の教訓を生かせたと強調した。

宇宙科学の新たな一歩を進み始めた日本。中村氏は「これでやっと惑星探査の世界に仲間入りできた。日本がデータを世界に提供できるようになったのが大きい」と力を込めた。